

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

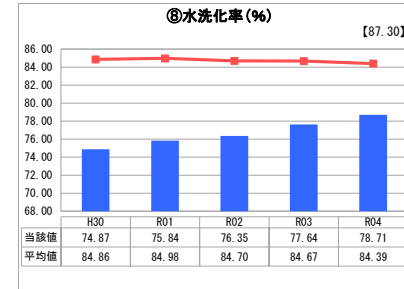
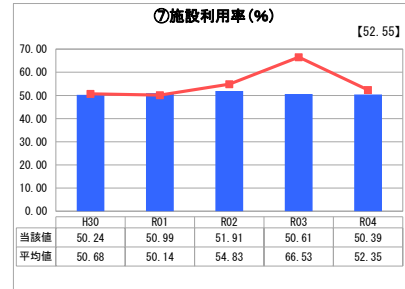
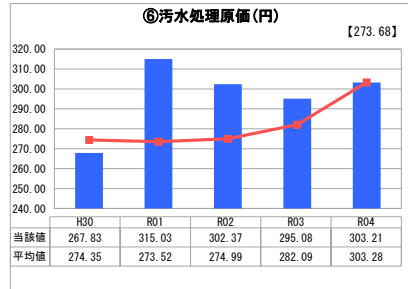
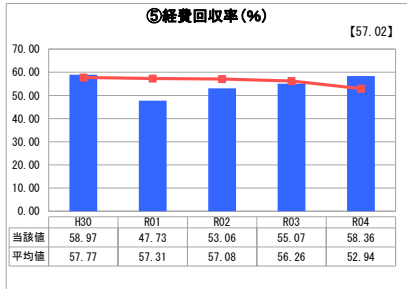
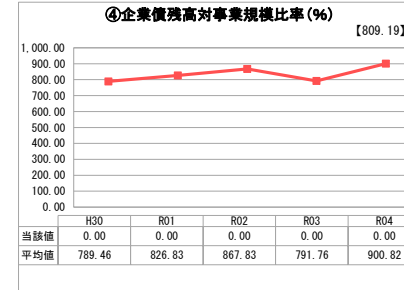
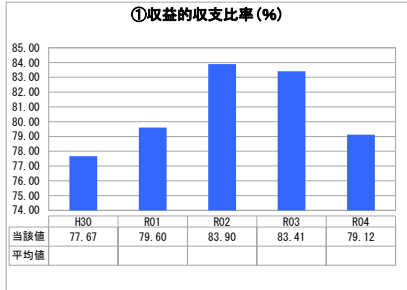
埼玉県 加須市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	10.95	95.53	3,544

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
112,179	133.30	841.55
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
12,294	5.54	2,219.13

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①収益の収支比率  
 総収益の額では総費用と地方債償還金を合算した額は賸えていない。これは償還金の額が大きいことによる。前年度に比して、総収益が減少し、総費用及び地方債償還金が増加しており、収支比率は4.29%の減少となっている。

④企業債残高対事業規模比率  
 比率値は0%となっているが、一般会計からの繰り入れが必須となっている状況である。

⑤経費回収率  
 経費回収率については、コロナ禍により短期的に使用料収入が増加したため近年上昇傾向にあるが、R4は年度末の曜日の影響により収納額が多かったこともある。経費回収率の上昇のために、さらなる経営努力が必要である。

⑥汚水処理原価  
 汚水処理について経費節約に努めているが、処理施設の大規模修繕(R1~5)及び電気代の高騰のため、平均より高い水準で推移している。

⑦施設利用率  
 水洗化率が上昇しているものの、近年においては利用率がほぼ横ばいで推移している。R2はコロナ禍により1件当たりの使用水量が平年に比べ短期的に増加したが、R3以降はやや落ち着き、施設利用率が0.22%の減少となった。

⑧水洗化率  
 水洗化率は微増傾向にあるものの全国平均には達していない。加入促進により、水洗化率の向上と施設利用率の向上を進める必要がある。

2. 老朽化の状況について

③管渠改善率  
 当事業の供用開始はS60であり、耐用年数50年は経過しておらず、下水道管の更新はまだ行う必要はない。しかし、処理施設の機械設備等は適切な時期に更新・老朽化対策を実施する必要がある。

また、H28には供用開始の一番古い名倉処理施設の改修工事を行った。H29には二番目に古い伊賀袋処理施設の全体実施設計及び管路調査を実施し、H30に同施設の改修工事を行った。

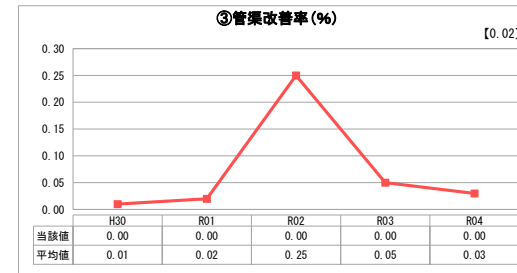
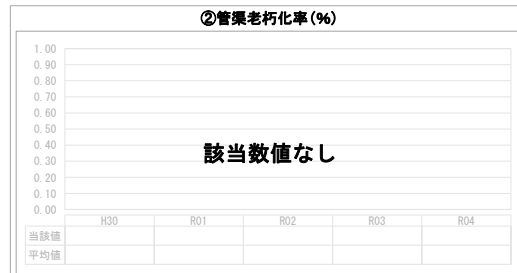
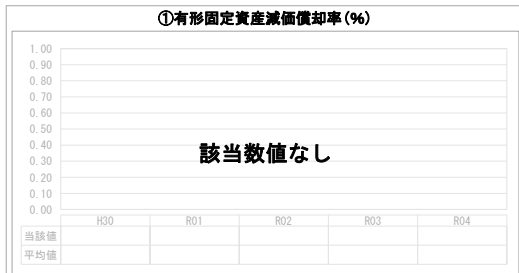
### 全体総括

当事業は16箇所の処理区を有しており、経営効率が高いといえない状況にある。一般会計繰入金への依存度が高く、この依存性をできる限り減少させるために水洗化率の向上等に努めるとともに維持管理費の削減に努める。

経営状況を的確に把握するため、R6から公営企業会計への移行を予定している。また、R6に最速整備構想を見直すとともに、R7に経営戦略を改定し、最速整備構想を反映した新たな経営戦略に基づき、持続可能な経営を目指す。

今後、公共下水道への接続や隣接する処理施設の統廃合等の検討も行う予定である。

## 2. 老朽化の状況



※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益の収支比率の類似団体平均等を表示していません。